

藤樹記念館通信⑧

三十二回記念館小企画開催中

館長 富永 雄教

現在、記念館では、「熊沢蕃山生誕四〇〇年」〜中江藤樹の代表的門人〜をテーマに小企画展を開催しています。

中江藤樹の代表的門人である熊沢蕃山は、元和五年（一六一九年）に、京都稲荷（京都市下京区）の野尻和利の長男として生まれ、八歳の時、水戸の母方祖父の熊沢守久の養子となって熊沢の姓を名乗り、十六歳の時に、宮津藩主京極高通の紹介で備前岡山藩主池田光政の小姓役として仕えました。

二十歳の時、岡山藩をやめて、近江・桐原村（近江八幡市）の父方祖母の実家に移り、二十三歳の時に師を求めて京都に出て、その年に近江国小川村（滋賀県高島市）の中江藤樹に教えを受けました。藤樹に師事していたのは約八か月程ですが、藤樹心学の神髄を体認しました。



熊沢蕃山像
(藤樹書院所蔵)

その後、ふたたび備前岡山藩で池田光政に仕えて、それを藩士に教示し、大胆な藩政改革を行いました。

蕃山は名君とうたわれた

光政の信任も厚く、藩政に手腕を発揮し、その名声は全国に響きました。特に藩学に藤樹の学を取り入れて、政治のより所としていかしました。藤樹の三子や有力門人を池田光政に推挙するなどその功績は大きいと言えます。



四行書（藤樹書院所蔵）
※藤樹と蕃山の共同作品

右の四行書は、中江藤樹と熊沢蕃山の合作の遺墨であるといわれています。一・三行目は中江藤樹の、二・四行目が熊沢蕃山の手によるとされています。「全ての出来事は出来事そのものとして素直な態度で見ざるべきであり、自己の勝手な考えで解釈するべきでない」という意味です。

蕃山は、後に陽明学者として名を馳せ、師である藤樹と藤樹の教えが広く知られるようになりました。状況に応じて事を行うという蕃山の考えは、特に治山・治水・飢饉対策などに成果をあげたとされています。

晩年は、三十九歳の時に和気郡寺口村（備前市蕃山）に隠居し、その後は京都や奈良等住まいを転々と移して、以後約三十年間は講学や著述に専念しました。六十九歳の時、古河城下（茨城県古河市）に移り、幕府の命令によって禁固の身となり、七十三歳で亡くなりました。



熊沢蕃山関連の
史跡等のマップ

主な著書は、「集義和書」、「集義外書」、「大学惑問」、「大学小解」などが挙げられます。この度の小企画展では、岡山市、備前市を中心に、熊沢蕃山が活躍した当時を偲ぶ遺墨や肖像画、写真などを展示しています。



旧閑谷学校 講堂
(岡山県備前市)

賛助会員一覧

ご協力ありがとうございます。

- ウエストレイクホテル可以登楼
- 株式会社 大山建設
- 川島酒造 株式会社
- 株式会社 桑原組
- 有限会社 宏和商事
- 税理士法人 小畑会計事務所
- 有限会社 白浜荘
- 社会福祉法人 新旭みのり会
- ソエダ 株式会社
- 田中マネジメント事務所
- 株式会社 TADコーポレーション
- 鉄屋商事 株式会社
- 寺子屋まなごし 重心塾
- 株式会社 土井薬局
- とも栄 藤樹街道本店
- 中村印刷 株式会社
- 株式会社 中村測量設計
- ニツケイ工業 株式会社
- 有限会社 馬場塗装
- 有限会社 綿庄食品店

◆賛助会員加入のお願い

ご協力いただける場合は、お近くの理事、または1面「発行所先」にお知らせください。

あとがき

「平成」から「令和」に元号が替わりました。騒ぎ立てるようなことではないと思いますが、これまでの自分を振り返り、これからの生き方を静かに想う「一つの節目」にしたいです。 H・M